

「特集」

実はすごいものづくり

メイド・イン・大阪

文 山田清機

堺市の堺伝匠館で打刃物の魅力を説明するフランス人スタッフ、エリック・シュヴァリエさん 写真=荒井孝治



22 大阪のほんまもん①
世界が惚れ込むクオリティー

30 だからメイド・イン・大阪
歴史が証明するものづくり力 文 北出芳久

32 大阪のほんまもん②
ものづくりは人づくり

38 実はすごいものづくり
メイド・イン・大阪〔案内図〕

42 大人がほしいジャパンメイド名品帖 旅人 朝日真
詫間宝石彫刻のジュエリーカット 「山梨県甲府市」

54 新連載 サンキュー！マイ★スター 文 サンキュータツオ
最後の手作り櫓職人・瀬尾豊明さん

9 京都の路地まわり道 文 千宗室
火鉢のある風景

11 ひとときエッセイ「そして旅へ」
文 辻明俊
旅の流儀

13 諸国名産お国言葉採集
文 篠崎晃一
すく「長野県」

14 Interview しなやかな挑戦
文 森綾
上野水香 バレエダンサー

41 柳家喬太郎の旅メシ道中記
車窓食堂の
厚切りロールとんかつ弁当

47 新幹線で建築さんぽ 文 甲斐みのり
一宮市三岸節子記念美術館
〔岐阜羽島駅〕

48 地元にエール これ、いいね！
鍋島焼〔佐賀県伊万里市〕

50 おいしいものには理由がある 文 土井善晴
なつかしの海軍カレー
〔神奈川県横須賀市〕

58 旬 News & Topics

60 美 Art & Entertainment
遊 Event & Festival

旅の小箱 from J R 西日本、J R 東海

64 食い倒れの町・大阪でグルメ満喫旅！

66 「KITE大阪」で
地域の魅力を再発見

68 丹波篠山国際博
日本の美しい農村、未来へ

69 北陸3県の魅力を発信中

70 「#東京ゾクゾク」キャンペーンが
スタート

72 J R名古屋駅の中央コンコースがリニューアル
駅ナカを楽しくする新店舗が
続々オープン！

73 奈良薪御能が紡ぐ時間

74 ひととき倶楽部
読者からのお便り
今月のプレゼントなど

76 次号のお知らせ

78 ルートマップ
東海道・山陽新幹線時刻表



綿製品やタオル、桶、革靴やキッチンウェアなど、大阪府には地域ごとに、高品質な名産品が多くある
イラスト=阿部伸二

特集

実はすごいものづくり メイド・イン・大阪

大阪

Made in
OSAKA

堺市の打刃物や泉佐野市の紡績など、高品質な大阪のものづくり。8世紀、各地の仏像づくりに技術を乞われた堺の河内鑄物師かわちいもじや近代に「東洋のマンチエスター」と称されるほど発展した綿紡績など、その歴史は誇らしいものです。そうした伝統を生かして作られる、いまの暮らしに寄り添った刃物や綿製品、革靴などの名品を取り上げて、大阪のものづくりを受け継ぐ人々の魂と技をご紹介します。

文＝山田清機（22頁～29頁、32頁～34頁）、編集部（35頁～37頁）
Yamada Seiki

写真＝荒井孝治
Arai Koji



大阪市にある日本で最も古い民間の製靴（せいか）学校・エスペランサ靴学院の生徒が作った靴 [左上] 堺伝匠館で、堺打刃物の魅力を紹介するフランス人スタッフ、エリック・シュヴァリエさん [左下] 日本の名だたる醸造メーカーの杉桶を製造、修理してきた藤井製桶所



世界が惚れ込む クオリティー

大阪・関西万博も相まって、ますます観光需要に盛り上がる大阪。さまざまなものづくりを得意とする大阪製の高品質な製品は外国人客にも大人気。メイド・イン・大阪の魅力を探ります。



[右]堺伝匠館は、刃物や注染(ちゅうせん)など堺市のものづくりを紹介するミュージアム。1階の「TAKUMI SHOP」には刃物事業者の作品がずらりと並び、購入も可能 [左]2階は「堺刃物ミュージアム CUT」となっており、刃物の製造工程などが学べる



Made in OSAKA

海外でも人気 堺打刃物〔堺市〕

大阪市の南に位置する堺市は、戦国の昔からタバコ包丁の産地として知られ、江戸時代に入ると、その抜群の切れ味によって、幕府から「堺極」の印を入れて売ることを認められた。極印とは、いわば幕府による品質保証である。

国際貿易港として栄えた堺港に、ポルトガル産の火縄銃とタバコ包丁がもたらされたのは、1543(天文12)年のことである。その後、タバコ包丁は和包丁

世界遺産の百舌鳥(もず)・古市古墳群は、大阪湾から近い堺市の巨大古墳群。海からやってくる外国船はこの古墳を目にし、強大な権力と築造技術に驚いたに違いない。写真上は最も大きな仁徳天皇陵の遥拝所 写真(下)=アマナイメーجز



へと進化を遂げ、いまや和食料理人の大半が堺打刃物(手作りりの鍛造包丁)を使うといわれている。

堺市の北部、紀州街道沿いにある堺伝匠館では、日本文化に惚れ込み、自ら堺の鍛冶屋で修業を積んだ経験を持つフランス人、エリック・シュヴァリエさんが堺打刃物の解説をしてくれる。

「堺打刃物の原点は、1600年前の古墳時代にあります。堺市には世界最大の墳墓である仁徳天皇陵古墳があります。古墳を築造する鍬や鋤などの道具を作るために、日本中から鍛冶屋が集められました。その下地があったからこそ、刃物の産地として発展することができたのです」

土地の記憶をつなぐ
泉州タオル
〔泉佐野市〕



ふくろやタオル [右] 織物で表現した名入れタオル発祥の会社で、現在も名入れタオルの注文はひっきりなし [左] 工場にはタオル織機がずらりと並ぶ。ガチャンガチャンと音を立てて、タオルがスピードで織り上げられていく

大阪府の南西部に広がる泉州地域は、国産タオル発祥の地である。

「泉州タオル」の歴史は、1887（明治20）年、佐野村（現・泉佐野市）で日本手拭いを生産していた里井圓次郎が泉州のタオルに出合い、木綿地にパイルを作る研究に挑んだことに始まる。

里井は日本手拭いの打出機を改良してタオルの製織に成功するのだが、それゆえに日本製のタオルは日本手拭いと同じ幅がスタンダードになった。中国や東南アジア諸国が生産するタオルも日本手拭いと同じ幅であり、これは日本からの技術移転のいわば「痕跡」である。

日本のタオル市場はこの30年余りで安価な輸入品に席捲され、最盛期に700社を数えた泉州のタオルメーカーは80社に激減。若き経営者たちは個性あふれるタオルづくりに挑戦することで、タオル王国泉州の復権を目指している。

ふくろやタオル（泉佐野市旭町）の袋谷謙治さんが挑むのは、泉州特産の水なす、玉ねぎ、松波キャベツ、ニンジン（彩誉）、バジルを染料に使った「雫」シリーズの生産だ。袋谷さんが言う。

「15年前、研修で愛媛に行った時、土産物店で今治タオルが大量に売られていて衝撃でした。また、帰阪時に泉州タオル産地の目の前にある関西空港で、海外製タオルしか販売されていない状況を見て、



[右] 射手矢農園の松波キャベツで染めた「雫」。織り柄にキャベツのデザインをあしらっている [左上] 袋谷謙治さん（左）と射手矢康之さんの外側にあるゴワゴワした外葉を染料として使っている

いったい自分たちは何をやっているのかと、愕然としました」

袋谷さんは研修に参加していた射手矢農園の射手矢康之さんと意気投合し、泉州特産の玉ねぎを染料に使うアイデアを持ちかける。泉佐野市は関西の玉ねぎ栽培発祥の地でもある。射手矢さんが言う。「発祥の地であるタオルと玉ねぎが一緒に広まるのはうれしいけど、まさかタオルを染めるとは思わなかった（笑）」

養成したいわけではないという。

「最初はまったくしゃべらなかつた子に、いまからミシンするからおっちゃんの方
見てみ、なんて言うのと、パッと目線が上
がってだんだんコミュニケーションが取
れるようになっていく。それがものづく
りのすごさです。靴づくりは厳しい世界
だから、心の底から靴を作りたくなつた
ら、その時に再開すればいいんです」

顧問の肥下先生の思いはまた、別のと
ころにあるようだ。

「日雇い労働や皮革産業で日本社会の底
辺を支えてきた西成は、日本有数のセー
フティーネットを持つ地域でもあります。
西成の生徒たちには、日本中に貧困が広
がっていく時代だからこそ、この地域が
大切に紡いできたものを全国に向けて発
信してほしいと願っているのです」

大山さんの人づくりのもうひとつの拠



エスペランサ靴学院の生徒、沢田ゆりさん作
の靴は、履きやすさ重視の曲線と見事なツヤ



点、エスペランサ靴学院を訪ねると、こ
ちらは本格的なプロの養成機関であつた。
生徒の沢田ゆりさんは、まさに「心の
底から靴を作りたくなつた」ひとりだ。

「以前は、動物園の飼育員としてペリカ
ンやワオキツネザルを担当していました。
飼育員も夢の職業でしたが、靴づくりも
捨てがたかつたんです。だって、一枚の
革が立体になつて人を支えるものになる
なんて、靴つてすごいと思いませんか」

沢田さんは1年間で10足の靴を作り上
げ、すでにある工房で研修に入ることが
内定している。大山チルドレンたちは、
確実にものづくりの喜びを味わい、それ
を生きる糧にしている。大山さんが言う。
「西成は人種も仕事も多様な、何でもア
リの町。西成に育つたおかげで、僕には
偏見というものがひとつもないんです。
こんな人間に育ててくれた西成の先人た
ちへの恩を、なんとかして次の世代に送

編集部 オススメ!

ヌーメロウノの 革スニーカー

大山一哲さんが代表の靴メー
カー・ロカシューのブランド
「ヌーメロウノ」の革靴。カ
ジュアルな雰囲気ながら、ツ
ヤある牛革は一級品。遊び心
のあるデザインにこだわった
履きやすい一足。

革スニーカー 39,000円(ヌ
ーメロウノ)

り届けたい。僕がやつてるのは恩返しじ
やなくて、恩送りなんです」

大山さんによれば、靴の真価は修理で
ソールを剥がした時に分かるという。本
物は、見えない部分がいそいそだ。

やまだせいき/ノンフィクション作家。1963
年、富山県生まれ。著書に『東京タクシードライバ
ー』(朝日新聞出版社)、『パラアスリート』(PHP研
究所)など



沢田さんの靴づくりのようす。師匠・大山さんも「入学
1年でこの仕上がりはすごいでしょ?」とにっこり



[右] 金槌で丸太を割っていく、藤井製桶所での製桶作業
 [上] 樽丸 くりやまの大口孝次さん。吉野杉の買い付けから「樽丸」と呼ばれる樽材製作までを請け負う、数少ない職人だ [下] 丸太を6等分した大割。吉野杉は年輪が密。特に外側の白い部分と赤い部分の境が水が漏れにくく、この境目を含めて樽丸を作るのが肝要だそう [左] 銚いで樽丸を削る大口さん。工房は杉の芳しい香りで満ちている

社員をよこしてくれ。製桶を教えてお返しするから」。心意気に胸を打たれたメーカーは、社員を派遣した。*
 いまでは自社で木桶を作れるメーカーも増えている。
 上芝さんが「樽や桶づくりは希少な樽丸師に支えられとるから、見に行ったらどうやろう」と、提案してくれた。「樽丸師」とは、桶や樽を構成する側板「樽丸」を作る職人。吉野へ向かうと、吉野川沿いに吉野杉の丸太を山積みにした「樽丸くりやま」が見えた。代表の大口孝次さんは、全国で10人もいない樽丸師のひとりだ。
 「吉野杉は成長を遅らせる『密植』みつしよくを



奈良県・今西酒造の新蔵「三輪伝承蔵」には、8本の
 大桶を納品。社長の今西将之さん(上右)と。蔵内
 ではこの桶で仕込んだ酒が提供される(左)

日本の高度なものづくり
技術によって生まれた、
大人が身に着きたい上質な服や小物。
服飾史を専門とする
朝日 真・文化服装学院専任教授が
名品の生まれる現場を訪ね、
魅力の秘密を探ります。



大人がほしい ジャパンメイド 名品帖

note
2

旅人 = 朝日 真
Asahi Shin

文 = 金丸裕子
Kanamaru Yuko

写真 = 佐々木実佳
Sasaki Mika

詫間宝石彫刻の ジュエリーカット

「彫刻の技術を使って金属に石を差し込んでいます。甲府は日本有数のジュエリー産地で、高度な技術が継承されている。僕たちは伝統の技術を、現代的なデザインに活用しているんです」
詫間宝石彫刻の社長で伝統工芸士でもある詫間康二さんは話す。
甲府が「宝石のまち」と呼ばれるようになったのは、約1000年前に市の北部に位置する金峰山で水晶の原石が発見

山梨県甲府市にある詫間^{たぐま}宝石彫刻のギャラリーでは、自然のままの原石が随所に置かれ、アンティークの棚には石の個性を生かしたジュエリーが並ぶ。
「すごくコンテンツポラリィ。しかも石と金属が見事に一体化している。接合部分を見ると、繊細な凹凸の細工になっている。宮大工の技のようですね」と、チェインのブレスレット（44頁）を眺めて、朝日 真^{しん}さんは驚く。
「彫刻の技術を使って金属に石を差し込んでいます。甲府は日本有数のジュエリー産地で、高度な技術が継承されている。僕たちは伝統の技術を、現代的なデザインに活用しているんです」



詫間宝石彫刻の詫間康二さん。伝統技術と現代的な感覚を融合させ、石の個性を引き出す作品を創造する

ギャラリーや工房には、水晶をはじめ、世界各地で買い付けた膨大な量の、多彩な原石が置かれている



されたことに端を発する。江戸時代、京都から水晶の買い付けに訪れていた玉造り職人が、金櫻^{かなざくら}神社の神官に砂を用いて水晶を研磨する方法を教えたのがきっかけとなり、産業として発展を遂げられた。
「甲府では、貴金属加工、宝石研磨、宝石彫刻の三つは分業制なんです。父はヒスイ彫刻の第一人者といわれ、美術工芸品を作っていました。僕は4人兄弟の3番目ですが、石に囲まれ、父の仕事を見て育ったので、父と同じ道に入ると決めていたんです。バブル崩壊後は市場が縮小し、父から仕事を継ぐことを強く反対されました。それでも諦めきれずに金属加工の会社に入り、ハイジュエリーの技術を身に付けて戻ってきたんです」
現在は弟の亘^{むつ}さんも参画し、職人も8人に増えた。原石の買い付けから金属加工、研磨、彫刻の全てを行っているから

秘窯の里が守り伝える献上品の伝統

鍋島焼

佐賀県伊万里市



市川光山さんが取り組む黒磁の「黒鍋島」。麻の葉や亀甲などの幾何学文様はかつて白磁や青磁に描かれていた伝統の柄。これらがすべて下描きなしの手描きというから驚きだ

焼き物の里、佐賀県伊万里市。ここに、350年もの歴史がありながら明治まで世に知られなかった磁器がある。それが、佐賀（鍋島）藩の命でつくられ、幕府へ献上もされた鍋島焼だ。藩は、山間の小さな集落、大川内山に藩窯を築き、優れた陶工を住まわせ、製法の漏洩を防ぐため人の出入りを厳しく制限した。民間に存在が知られるようになったのは廃藩置県の後だ。伊万里駅から車で20分程のこの地には今、当時の伝統を受け継ぐ30軒余りの窯元が並ぶ。

その中で御用窯の伝統を色濃く残すのが光山窯だ。廃藩後の鍋島家が窯の運営を任せたのがこの窯の初代。当時の建物の残る工房で、鍋島焼の高い技術を受け継ぎ、制作を続ける19代市川光山さんは、伊万里・有田焼伝統工芸士と一級技能士計全6部門の資格を有する唯一の人である。その名工が今取り組んでいるのが、鉄を混ぜた黒い磁肌（まがひ）に幾何学文様を施した「黒鍋島」だ。伝統の白磁に比べてモダンな風合い。「江戸時代の鍋島が今に続いていたらこうなっていただろうものを形にした」と市川

文＝佐藤淳子 写真＝佐々木実佳
Saito Junko Sasaki Mika

おいしいもんには
わけ
理由がある

第77回

文 土井善晴
Doi Yoshinaru
写真 岡本寿
Okamoto Hisashi



「よこすか海軍カレー」
を提供する店舗は現在
42店舗。「横須賀海軍
カレー本舗」のカレー
は、具材がごろごろ、
リッチでまろやかな味

明治時代に日本海軍が兵食改善のために取り入れたカレール。横須賀市で受け継がれ、広く愛されています

なつかしの海軍カレール

《神奈川県横須賀市》

フランスの支援で整備された港

横須賀市の定番スポット、1868(明治元年)に起工した真っ白な観音埼灯台。関東大震災などの地震で2度倒壊しており、現在は1925(大正14)年に再建された3代目のコンクリート造。日本初の洋式灯台で、フランス人技師・ヴェルニーが手掛けた。ヴェルニーは野島埼灯台(千葉県南房総市)、品川灯台(東京都品川区。現在は愛知県犬山市の博物館明治村に移設)なども建造しており、横須賀造船所をはじめとする日本海事の近代化に尽力した

どいよしはる/1957年、大阪府生まれ。料理研究家、十文字学園女子大学副学長。NHK「きょうの料理」に出演。『一汁一菜でよいという提案』(新潮社)、当連載をまとめた『おいしいもんには理由がある』(ウェッジ)など著書多数。



横須賀の玄関口、横須賀駅からほど近いヴェルニー公園^{*}には、「よこすか近代遺産ミュージアム ティポディエ邸」があります。幕末、江戸幕府がフランスの支援を受けて横須賀製鉄所の建設を始めたとき、製鉄所副首長を務めたティポディエの官舎を再現した西洋館です。その小屋組を移設したフランス風のしゃれた白いミュージアムは、初めて横須賀を訪れた私の想像とまったく違っていたのです。関西の子供でも知っていた当時の横須賀は、少々怖いスカジャンのイメージで、アメリカ軍の基地だけの街と想っていたからです。

ティポディエ邸では、江戸時代終焉の契機となる黒船来航(1853〔嘉永6〕年)から、日本の近代化に大きく貢献したフランスの横須賀製鉄所建設(1865〔慶応元〕年)までの展示や、現在の横須賀観光を紹介する映像が楽しめて、工夫された横須賀の見どころを解説するカードもゲットできます。横須賀の今を楽しむには、まずは歴史を知って興味をもつこと。ティポ

ディエ邸リーダー・及川明敏さんにご案内いただきました。

1854(嘉永7/安政元)年、ペリー再来航を機に、日本はアメリカと日米和親条約を結び、下田・箱館を開港。欧米列強との技術の差に危機感を抱いた日本は、日米修好通商条約などを締結。さらに、オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも同様の安政の五カ国条約を結びました。その後、欧米列強に追いつくため、フランスの協力を得て、近代化を進めます。

フランスの日本に対する技術支援の背景には、政治的思惑以上に、日本文化へのリスペクトがあったように思います。19世紀のヨーロッパでは、「ジャポニズム」と呼ばれる日本文化への関心が高まり、芸術家や知識人に大きな影響を与えました。1867(慶応3)年のパリ万博には北斎など多くの浮世絵や工芸品が出品され、日本文化が席卷したのです。

横須賀には、横須賀造船所の建造と日本人技師養成のために、130名のフランス人技師、医師、教師らが滞在し、近代工業の最先端の街として発展してゆくのです。

*横須賀製鉄所時代のティポディエの上長にあたるF.L.ヴェルニー[1837-1908]の名を冠した公園。2人はフランス海軍技術者で、来日後は横須賀の近代化に尽力した